

Hitotsubashi University

MOS2006

Project Magazine



EXCHANGE
JAPAN 2006

M a g n e t i s m o f S w e d e n

About us 01

Message 02

- The reports of our activities -

Nippon Day 04

Sweden Day 07

Swedish Society 11

Swedish Business 13

Sponsors & Information 18



私たちMOSは、一橋大学の学生10名からなる学生団体です。
スウェーデンのストックホルム商科大学の学生10名からなる
学生団体Exchange Japanとともに、
相互交換ホームステイを核とした国際交流活動を行っています。

EXCHANGE
JAPAN 2006



ストックホルム商科大学



The Student Association
Stockholm School Of Economics



ストックホルム商科大学は、ストックホルムの中心に位置し、商学・経済学に特化した単科大学である。スウェーデンでは通称"Handels"(スウェーデン語で"商業"の意味)と呼ばれている。スウェーデンでは珍しい私立大学であり、1909年の設立以来、多くの民間企業の寄付によって経営がなりたっている。学生数は1000人程度と小規模な大学ではあるが、ヨーロッパを代表するビジネススクールとして知られ、スウェーデン内外から優秀な学生が集まっている。卒業生の多くは投資銀行・コンサルティングファームを始めとするトップ企業に就職し、世界各地で活躍する。一橋大学との協定も結ばれており、MOSのOB,OGを始め一橋大学から毎年留学生が派遣されている。

研究対象となるのはスウェーデンやヨーロッパだけではなく、日本のビジネスや経済を研究する、EIJIS 欧州日本研究所(The European Institute of Japanese Studies)を大学の機関として設立しており、東京にもオフィスを設けている。

大学の組織だけではなく、学生の活動もグローバルに広がっている。特に学生主体の国際プロジェクトが盛んであり、多くの国々との交流プロジェクトが存在する。特にアジア地域との交流組織であるEast Asia Association(EAA)は中国、韓国、ベトナムなど多くの国とのプログラムを持つ。私たちMOSのパートナーであるExchange Japanも、EAAに所属する団体のひとつである。

Our Goal...

約1ヶ月のスウェーデン人学生との共同生活を通じて異文化に触れ、
多様な価値観を理解する。

さらにイベントを協力して開催することで
グローバルな社会で必要となる基礎力をつける。

企業訪問や渉外活動を通じて、日本のみならず世界のビジネスに触れる。

お互いの国の魅力を伝え合い、日本・スウェーデン間の交流促進に寄与する。

そして最終的に日本とスウェーデンのビジネスの世界において
互いの国の橋渡しとなる人物となることを目指しています。

■ 2週間ずつの相互交換ホームステイ

春休み期間を利用しての相互交換ホームステイを行います。MOSメンバーとExchange Japanメンバーとで一人一人パートナーが決められ、パートナーはお互いの家に2週間ずつホームステイし、交流を深めます。

■ 両国で互いの国を紹介するイベントを開催

スウェーデンで日本を紹介するイベント「Nippon Day」、日本でスウェーデンを紹介するイベント「Sweden Day」を、ホームステイ期間中にExchange Japanと共同開催します。多くの企業や組織の皆様のご協力をいただきながら、参加者の皆様に両国の魅力をお伝えできるようなイベントを目指しています。

■ 企業訪問 / 企業イベントの共催

世界的な活動を行っているスウェーデン企業を訪問し、グローバルな視点からビジネスを学んでいきます。また、世界に誇るべき日本企業をスウェーデン人学生に紹介するため、日本企業の訪問も行っています。今年度はご協力いただいた企業とともに、日本の学生を対象とした企業イベントの共催も行いました。

■ スウェーデンに関するテーマスタディ

スウェーデンに関して様々なテーマを設定し、渡航前に勉強会を行い、スウェーデン滞在中には、関連する企業や施設の訪問やヒアリング調査を行います。今年度は、スウェーデンの教育制度、同棲婚、老人福祉について研究を行いました。





在日スウェーデン大使

Mikael Lindström 様

一橋大学MOS2006プロジェクトの著しい成功を聞くことが出来て、大変うれしく思っております。このプロジェクトを通じて、様々なバックグラウンドを持つたくさんのスウェーデン人、日本人学生が友情を培い、お互いからたくさんを学びあえたことでしょう。多くの人々から、大使館にて一橋大学とストックホルム商科大学の学生とによって開催されましたSweden Dayに対する感謝の言葉をいただきました。これは参加者がスウェーデンと日本の文化的相違、共通点両方を体験できる並外れた可能性を持ったイベントでした。それとともに、このイベントはスウェーデン人学生にとっても、一般的によく見聞きするステレオタイプや偏見を超えて、本当の日本のイメージを捉えることのできる初めての体験となったことでしょう。日本・スウェーデンの学生同士お互いを今後とも、理解、尊重し続けるであろう、強固な土台とその契機をこのイベントはもたらしました。それと同時にSweden Dayはスウェーデン企業と日本人学生が一同に会し、両者がインタラクトする貴重な機会であったことも重要です。特に参加企業にとっては、未来の顧客や従業員に出会うというユニークな機会であったのです。

スウェーデン人と日本人との結びつきは多種多様であり、それがもたらすお互いの生活と文化への理解がより深まっていくことを私は望んでおります。文化の多様性は精神的豊かさの源であり、人が一緒に集まるということはお互いへの尊敬と平和的共存を促進することの助けになります。私は日本・スウェーデン両国とその文化を、モダンな現代の生活だけでなく、強い伝統の影響を受けている点もふまえて、できる限り、ありのままのイメージで伝えていくことが重要であると感じています。こういったMOSプロジェクトのような深い交流は、スウェーデン・日本国間の政治的、経済的関係をさらに深く広げていくための下支えとなることでしょう。私たちはスウェーデン、日本そして残りの世界が抱える問題を、これから共に協力し合い、乗り越えていくでしょう。MOSプロジェクトの誇るべき業績をもとに成長して欲しいと思います。



MOS2006顧問
一條和夫 教授

一橋大学大学院社会学研究科
/国際企業戦略研究科教授

IMD(International Management
& Development)教授

今、社会、経済、政治などさまざまな側面で活動がグローバルに広がっています。このような中で従来、Japan centricだった日本のsystem、mindset、attitudes、behaviorsを変革することが求められています。それをどのようにして行えばいいのかという難しい問題にMOSのメンバーは取り組み、解を見つけ出してほしいと考えています。そのためには海外のより多くの人々と交流を持ち、彼らを知るとともに自らを再認識する活動が求められるでしょう。またグローバリゼーションが広がれば広がるほど、さまざまなconflictsは不可避になります。そしてそのようなconflictsを解消するベストな方法は、さまざまな人々との間でsocial networkを結び、よき社会資本の構築に努めることです。今回のMOSでの活動がそのための重要な一歩になったことを期待しています。そして今後もMOS内外でこのような活動を継続していくことを強く希望しています。

Be the change you want to create! (Mahatma Gandhi)

運転免許のことなら
当校におまかせ!

www.toyota-dst.co.jp/ (PC)
www.toyota-dst.co.jp/im/ (モバイル)

西キャンパス前より無料送迎バス運行中!
立川市羽衣町1-3-4:042-526-3551

～キャンパスから一番近い教習所～

☆お申し込みは生協カウンターにて☆



普通車・普通二輪・大型二輪



東京都公安委員会指定：実地試験免除



トヨタドライビングスクール
TOYOTA DRIVING SCHOOL

スウェーデンハウスの 性能価値宣言

全ての性能は、快適な暮らしのために。

20年前、日本に誕生したときから、スウェーデンハウスは常に日本の住宅性能をリードしてきました。健康で快適、しかも環境にやさしい暮らしのための高気密・高断熱性能。100年住宅を目指す耐久性能。大切な家族と財産を守る耐震性能…。家を建てる時、ぜひスウェーデンハウスと他の家を比べてください。その価値がきっとお分かりいただけるはずです。



全ての家の気密性を測定・保証します。

スウェーデンハウスは標準仕様で、次世代省エネ基準を大きく上回る気密性を実現。一部ごとに気密測定技能者がC値(相当隙間面積)を測定し、確かな性能でお引き渡しています。

20年前から

次世代省エネ基準を上回る省エネ性能。

断熱材に包まれた隙間の少ないパネル構造、木製サッシュ3層ガラス窓など、20年前から標準仕様で優れた省エネ性能を実現しています。



標準仕様で、阪神・淡路大震災の2倍の揺れに耐える耐震性能。

実際のスウェーデンハウスに様々な地震の震動を与える実験を行ったところ、阪神・淡路大震災の2倍の揺れにも耐え抜き、災害後も安心・快適に暮らせることが実証されました。



床200mm、壁120mm、天井300mmの断熱材を使用。

床・壁・天井などに使用している断熱材の材質、厚さ、密度、気密性のいずれも次世代省エネ基準を大きく上回るクオリティ。まさに魔法瓶のような構造で優れた断熱性能を発揮します。



暑さ、寒さと泥棒に強い木製サッシュ3層ガラス窓。

断熱性が高い木製サッシュ3層ガラス窓で、飛び抜けた気密・断熱性能を発揮。しかも、厚さ4mmのガラスを3層にして使用することで割るのに時間がかかり防犯効果にも優れています。



優れた遮音性と、火に強い防火窓。

屋外が地下鉄の車内ほどの騒音でも、室内は静かな事務所程度の静けさに。さらに、準防火地域でも使用できる防火設備認定を受けたものもご用意していますので、火災にも安心です。



日本初、50年間無料定期検診システム。

100年住宅を目指すスウェーデンハウスにいつまでも快適に暮らしていただくために、お引き渡し後10年保証の後、5年ごとの無料定期検診を実施しています。



樹齢80年前後の北欧の木の家。

木の家の寿命は、使用している木の樹齢に比例すると言われています。スウェーデンハウスは、北欧の厳しい自然が育てた樹齢80年前後の厳選された天然木を使用しています。



人にやさしい、建材・施工材を使用。

シックハウスの原因と言われているホルムアルデヒド。スウェーデンハウスでは、人体に悪影響の少ない合板や、ノンホルムタイプのクロス糊を採用しています。



1棟で、1年間に軽自動車1台分のCO₂削減*1

地球温暖化の原因と言われるCO₂。スウェーデンハウスは、新省エネ基準の家と比べ、我慢することなく、通常の生活で一年間に軽自動車1台分のCO₂を削減することができます。



冷暖房した空気を逃がさない熱交換型換気システム*2

住宅に換気装置が義務づけられる前から、24時間熱交換型換気システムを標準装備。冷暖房効率を落とさず、室内を新鮮な空気で満たします。



2004年地球温暖化防止活動環境大臣表彰受賞

性能の差が、暮らしの差。スウェーデンハウス

*1燃費16.8km/リットルの軽自動車1年間に8,000km走行した場合の排出量を削減します。*2建築場所により寒冷地向けの換気システムもご用意しております。(外気温が-5℃以下になる地域)



スウェーデンハウスは、全事業所でISO14001の認証を取得しております。
スウェーデンハウス株式会社
本社 東京都世田谷区太子堂4丁目1番1号 〒154-0004 TEL.03-5430-7820(代表)
性能に裏付けられたスウェーデンハウスの真の価値をホームページで
www.swedenhouse.co.jp

資料のご請求はフリーダイヤル、もしくはインターネットで
0120-75-5850 [受付時間] AM9:00~PM5:00
スウェーデンハウスの携帯電話地図サービスサイト「GMAP」。全国の展示場を携帯電話から見やすい地図でご案内します。sw@gnmap.jpへ「空メール」してください。HPからもどうぞ。
※「GMAP」ご利用の際は、ドメイン指定受信設定等、メール受信制限解除をご利用の場合は、「@gnmap.jp」からのメール受信が可能に設定してください。



Nippon Day 2006

Nippon DayはMOSプロジェクトのメインの活動であり、日本の魅力をカルチャー、社会、ビジネス、ライフスタイルなど様々な側面から、スウェーデンの学生に紹介するイベントです。

—実施概要—

【主催】MOS2006, Exchange Japan2006

【日時】2006年2月28日(木) 9:10~14:30

夜の部:18:00~20:00

【参加者】スウェーデンの大学生を中心とする約300名

【会場】ストックホルム商科大学

夜の部:スヴェンスクテン(SVENSKT TENN)

協力：東京都 国際観光振興機構(JNTO) 東京観光財団
The Tokyo towersマンションパビリオン 株式会社アクセスパブリッシング





Breakfast Lecture

スウェーデン人起業家のヨハン・ワルバック氏によるプレゼンテーションによってNippon Dayは幕を開けた。ワルバック氏は、自分がシングルであることを示す指輪「シングルリング」を発売し、日本市場でも大きな成功をおさめている。ワルバック氏はこれまでも数々のビジネスをグローバルなマーケットで起こしてきた実績がある。会場では未来のビジネスリーダー、起業家のストックホルム商科大学の学生を中心に熱心に耳を傾ける姿が見られた。



Lunch Lecture

スウェーデンの国会議員のSusanne Gaje氏によって、日本の社会に関するプレゼンテーションが行われた。特に、日本人のワーキングスタイルや女性の権利などについて、ここ30年間の変遷をお話頂いた。彼女自身が日本での在任経験があり、当時のリアルな状況なども取り混ぜたお話も聞くことができた。スウェーデンとは多分に異なる日本社会への関心を参加者は高めたようである。

TOKYOブース

東京は政治、経済、産業、伝統、文化の中心地であると同時に、我々の生活拠点である。Nippon Dayでは日本の縮図である東京の多面性を様々な企画によって伝えることに成功した。

■秋葉原企画 ～オタクCULTURE～

日本のNEW CULTURE「オタク」のメッカである秋葉原。今や市場規模でカラオケと肩を並べたオタクCULTUREを「オタクの部屋」をコンセプトに紹介した。オタクたちの部屋の様子からポスターやフィギュア、アニメやマンガを置き、オタクの気持ちを体験してもらえる企画。スウェーデンではジャパニメーション、マンガは良く知られたもので、質問の嵐。スウェーデンのオタクは非常に積極的だった。



■永田町/霞ヶ関企画 ～日本の中枢機関～

日本の政治と経済の中心地である、永田町・霞ヶ関をふまえて、日本の文化に深く関わる貨幣と紙幣についての展示を行った。貨幣や紙幣の模写図を使用して、お金の価値や描かれている日本のシンボルの意味やそれらが日本文化にどういった影響を与えたかを説明した。Nippon Day全体で使用したクイズの答えがこのブースの説明文に書かれていたため、スウェーデン人学生が多数立ち止まって、答えを探る姿がみかかれた。

■浅草企画 ～神社～

東京の神社を取り上げた。写真や神棚・鳥居などを設置することで、言葉で説明しにくい日本の信仰を肌で感じてもらった。また、日本人の自然観の紹介や、日本人の鳥居に対する畏怖心を利用した環境グッズ「ごみよけトリー」を説明することで、最先端を走るTOKYOにおいても残る日本人と信仰との関わりを紹介した。また、特設絵馬コーナーには多くの学生が願いを書いてくれ、大好評だった。



■上野企画 ～商い一筋～

たくさんの専門店が軒を連ねた「街」がまたさらに集まる空間。そんな上野の一面をアメ横のお菓子という切り口で紹介してみようとした。目移りを誘うような色とりどりのチロルチョコを、ときにはかわゆい看板娘(?)が、またあるときはだみ声おやじが、一つ一つ丁寧に説明。一番人気は変わった食感の「きな粉もち」、友達に紹介すると言ってお土産に包んでいく人も。火を吹くような辛さのわさビーフも寒さに厳しい北欧人のお口に合ったようで、早々に「売り切れ」の文字が掲げられた。



■下町企画 ～東京の匠～

日本の伝統的な側面を紹介する企画として東京都指定の伝統工芸品に焦点を当てた。伝統工芸品の製作工程と歴史を紹介し、さらに、実際に手にとってもらおうということで、江戸刺繍、江戸更紗、東京七宝などのお借りした商品の展示を行った。ほとんどの学生にとって伝統工芸品を実際に目にするのは初めてのことだっただろう。東京の匠の技に熱心に見入る学生の姿が多くあった。



■渋谷/原宿企画 ～コスプレと若者ファッション～

MOS女5名が、それぞれコスロリ、ロリ、女子高生、メイド、アニメのキャラクターの格好を身にまとい渋谷/原宿のコスプレイヤーに扮してガイド。彼らが日本人の「萌え」の精神をどこまで理解したかはいざ知らず、日本のコスプレをモダンカルチャーの一部として認めていたことは事実である。また、おしゃれな学生のクロークをイメージしたブースを設け、日本とスウェーデンの若者ファッションの違いを視られる仕組みを作った。デザインの国スウェーデンの学生の目に日本のファッションはどう映ったのだろうか。



CULTUREブース

■書道

昨年同様、スウェーデン在住の日本人書道家 木村浩子氏の協力のもと、書道体験を開催。参加者は先生の指導のもと、思い思いに書道を楽しんでいた。日本語で自分の名前を書くという企画は好評で、参加者の一人のペアさんは自分で書いた「熊」という漢字を満足げに眺めていた。

■折り紙

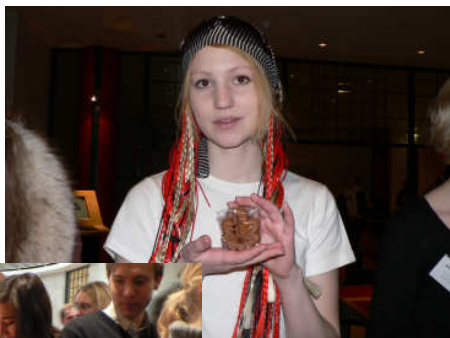
「Origami」という言葉はスウェーデンでは親しみのある言葉で、「Origami Electronics」という製品もあるほどである。今年も昨年同様、スウェーデン在住の折り紙職人 鳥本氏の協力によって、折り紙作品の展示会が行われた。鳥本氏はスウェーデンのみならず世界各地で折り紙実演や作品の出品、講演活動を行っている折り紙のプロである。匠の技が随所に折り込まれた色とりどりの作品に、立ち止まりしげと感心の目で眺める参加者の姿が見られた。

■生け花

生け花教室、First Leaf Ikebana.に所属するアーティストによる、生け花展示が行われた。お昼過ぎからは1時間にわたるデモンストレーションが行われ、スウェーデン人学生はその巧みな技術にみな魅了されていた。進んでアーティストに質問をする学生が多数見られた。

■日本の伝統おもちゃ

日本で昔から遊ばれてきた伝統的なおもちゃの展示を行った。竹とんぼ、だるま落とし、風車、輪投げ、ペーゴマ、めんこ、お手玉、けん玉などを参加者は自由に手にとることができた。とりわけ、コマをまわす仕組みに興味をもつ参加者が多かった。



■ダンスダンスレボリューション

日本で一世を風靡したあのダンスダンスレボリューションを設置。一度やるとやみつきになり、何度も何度も列に並びなおして挑戦する姿も見られた。老若男女関係なく果敢に挑戦する光景は新鮮だった。

■カラオケ

日本ではもはや行ったことのない人を探すのが難しいカラオケボックスを再現。はじめは恥ずかしさからか、なかなか歌う人が集まらなかったが、スタッフによるデモンストレーションを境に徐々に人が集まり、観客の輪ができて、手拍子に歓声が起こった。同時に行われたカラオケ大会で、得点が最も高かったハッテムさんには賞品が贈られた。

■和菓子

和菓子として、羊羹、もみじ饅頭などを実際に参加者に食べてもらった。抹茶味、黒砂糖味、珈琲味など羊羹の味のバリエーションは豊富で、和菓子を身近に感じたという声が聞かれた。ナイフとフォークで和菓子、コーヒーに和菓子というスタイルもなかなか乙。スウェーデン人にも受け入れられる和菓子の可能性を見せていた。

協賛：  



■日本食

ストックホルムにも多数の寿司レストランがあり、寿司を知らないスウェーデン人はいないといわれている。漁業の盛んなスウェーデンでは、寿司のネタはサーモンがメイン。新鮮なネタが参加者にふるまわれた。寿司以外にも味噌汁、お茶漬、おにぎりといった日本食の試食も実施。味噌汁はストックホルムの寿司レストランで扱っているところが多く、好みだという人も多い。おにぎりも、予想を上回る人気だった。スウェーデンでは細長くパサパサした米が主流なので、日本のお米がおいしいという感想を多く聞くことができた。

協賛：   

Nippon Day 夜の部

夜の部は、スウェーデンの老舗インテリアショップ、スウェンスクテン (SVENSKT TENN)で開かれた。洗練された店内での立食パーティーに、日本大使館・協賛企業の方々、事前に招待された日本に関心のあるスウェーデン人学生ら100名以上が参加した。会場では日本酒の利き酒が行われ日本流に夜の部はスタート。特に終盤、大塚清一郎日本大使自らが麦わら帽子をかぶり、ギターを片手に「上を向いて歩こう」やスウェーデンの明るい伝統歌などを歌われたことが好評で、会場は大いに盛り上がった。

協賛：  



「日本はとりわけ経済的な面で世界から注目を浴びているが、文化の面でも素晴らしいものを持っている。新しいものと古いものがまったく異なるもので、多様に広がる日本の創造性に感心している。」

「日本の女性の職場環境が変わってきているというプレゼンはとても興味深かったわ。こういう機会を活用して、どんどん新しい情報を得るというのはいいことだとおもう。」

「日本に旅行に行き日本の奥深さに触れ、日本ファンになりました。日本語の勉強を10年間続けてきている。今日は習字の体験やダンス(ダンスダンスレボリューション)もできたしとても幸せな日でした。」



Sweden Day 2006

Sweden DayはMOSプロジェクトのメインの活動であり、スウェーデンの魅力カルチャー、社会、ビジネス、ライフスタイルなど様々な側面から、日本の学生に紹介するイベントです。

—実施概要—

【主催】MOS2006, Exchange Japan2006

【日時】2006年3月30日(木) 13:00~19:00

【参加者】大学生を中心とする約200名

【会場】スウェーデン大使館(東京・六本木)

協力：株式会社就職課 学生新聞 有限会社ビネバル出版
 北欧総合情報サイトMarble-Plus スウェーデンスタイル・コム
 北欧情報専門サイト「北欧サイズ」 北欧生活.com 北欧ライフスタイリング

学生新聞 Bindeballe Marble-Plus
www.gjnews.jp

swedenstyle Introduce & Promote Swedish Design to Japan withStyle 北欧生活.com 北欧ライフスタイリング



■スウェーデン大使 スピーチ

駐日スウェーデン大使のミカエル・リンドストロム氏にスピーチを行っていただいた。大使は、まず、スウェーデンの経済は非常に好調で、日本とのビジネス面での結びつきも強いことを強調された。また、日本はスウェーデンでは非常にクールなイメージで、スウェーデンの地下鉄では、日本の漫画を読む若者をよく見かけるそうだ。さらに、大使はスウェーデンは、福祉の面で多くの国のモデルケースとなっていることを述べられた。世界No.1の年金システム、女性の出生率が高い数字を維持していることなどをあげ、日本がスウェーデンから学べることは多いと提言された。

■Exchange Japanによるスピーチ

Exchange Japan2006代表のLars EngströmとKristina Jakobssonより、参加者への感謝の言葉が伝えられた。

■MOSによるプレゼンテーション

MOSはスウェーデンに関する研究活動として、同棲婚(サムボ)と教育制度についての発表を行った。トピックに関しては別ページをご覧ください。



■スウェーデンのファッションブランド

会場には、スウェーデンの若者向けファッションブランドの服が展示された。ストリート系のものから、かわいらしいものまで様々なスタイルが大使館を華やかに飾った。最新のファッションにもスウェーデンのスタイリッシュデザインが生きているのを感じさせられた。



■音楽大国スウェーデン

スウェーデンは音楽産業大国として有名であり、音楽輸出で世界3位を誇るほどである。多くのレコード会社の協力によって、スウェーデンの音楽が会場に流れ、試聴ブースも設置された。Caesars、Mando Diaoといったロックから、ポップス、ジャズ、カントリーなど幅広いジャンルのスウェーデン音楽が会場に響き渡った。また、スウェーデン出身の障害を持つゴスペル歌手、レーナマリアさんを紹介するブースは特に関心が集まった。

協賛： 東芝EMI  



■スウェーデンの国技！？～アイスホッケー～

スウェーデンで最もポピュラーなスポーツと言っても過言ではない、アイスホッケー。先のトリノオリンピックでも宿敵フィンランドを決勝戦で破り金メダルを獲得するなど、実力はトップクラス。ちょうどMOSメンバーのスウェーデン滞在中に決勝戦が行われ、街中が金メダルに沸いていたのが印象深い。Sweden Dayでは会場に自由に遊ぶことができるアイスホッケーゲームを設置した。参加者は初心者にも容赦しないスウェーデン人学生を相手にし、真剣勝負に挑んでいた。

■スウェーデン料理を味わう

六本木のスウェーデン料理レストラン「リラ・ダーラナ」によって、ブース・プレゼンテーション時間帯にはホットドッグが、懇親会ではスウェーデン料理が参加者にふるまわれた。ミートボールやサーモン、「ヤンソンさんの誘惑」などのスウェーデン料理に参加者は大満足であった。また、懇親会中には抽選会も行われた。アイスホッケーゲームをはじめ、参加企業や協力企業から提供された多くの豪華な商品が参加者にプレゼントされ、会場は大いに盛り上がった。



■Sweden Day 企業ブース/プレゼンテーション

ビジネスの視点を通してスウェーデンをより深く参加者に知ってもらいたい、という狙いのもとに、多くのスウェーデン企業、スウェーデンに関係の深い日本企業に、Sweden Dayに参加していただいた。当日は自由に立ち寄ることができる会場内のブース出展とプレゼンテーションの2つの形式で、企業と参加者との交流が行われた。スウェーデンでのビジネスについてや、社員の目線から見たスウェーデン企業について企業担当者に話を聞く参加者の姿、プレゼンテーションに熱心に耳を傾ける参加者の姿が多く見受けられた。

ERICSSON

ERICSSONは本社をスウェーデンに持つ、世界のテレコム業界のリーディング・カンパニーである。世界最大の移動通信網システムのサプライヤーかつ、モバイル・マルチメディア製品のトップサプライヤーである。モバイル端末事業ではSonyとの合併会社Sony Ericsson Mobile Communicationsを設立しており、日本、スウェーデン間でのビジネスエリアでの特筆すべきコラボレーション事例である。当日は、日本エリクソン株式会社のマーケット・コミュニケーション部の坂田容子氏にプレゼンテーションを行っていただいた。ERICSSONはスウェーデン企業ということもあり、社会的責任には力を入れている。Ericsson Response Programは、その一つであり、災害時に損害を受けた通信インフラの復旧をERICSSONはボランティアで行っている。また、日本のモバイルマーケットについても丁寧に解説いただき、ERICSSONの技術のおかげで私たちが普段何気なく行っているモバイルコミュニケーションが可能となっていることを知ることができた。



Scandinavian Airlines スカンジナビア航空

スカンジナビア航空はスウェーデン、デンマーク、ノルウェーのスカンジナビア三国が共同で運営する航空会社で、本社をストックホルムに持つ。アジアに対する拠点としては、デンマークのコペンハーゲン国際空港がハブ空港となっていて、東京-コペンハーゲン間は毎日運行されている。MOS・EXJメンバーも日本スウェーデン間の渡航に際し、スカンジナビア航空を利用させていただいている。また、近年、北欧・バルト三国の航空会社の傘下化、スターアライアンスへの加盟などの動きを見せている。当日は、旅客営業管理・マーケティングマネージャーの金子真也氏にプレゼンテーションを行っていただいた。SASはすべての長距離国際線への機内インターネットサービス「Net Access」の導入を始めとして、優れたカスタマーサービスには定評がある。金子氏は、スカンジナビアの国柄とも言うべき、自由にモノを言える空気が社内であり、業務の改善が積極的に行われているからこそ、そういった高いサービスを提供することができると述べられた。



AstraZeneca Astra Zeneca life inspiring ideas

Astra Zenecaは強力な研究・技術基盤を持つ、医薬品業界の世界的なリーディングカンパニーである。スウェーデンのAstra社とイギリスのZenecaグループが1999年に合併して誕生した企業である。本社はイギリスであるが、研究開発の本拠はスウェーデンにおかれている。医療ニーズの高い治療領域(消化器、オンコロジー、循環器、ニューロサイエンス、呼吸器の5つの治療領域)において、革新的で効果的な製品を提供している。当日は、Astra Zeneca株式会社の採用担当の松崎直子氏にプレゼンテーションを行って頂いた。日本では豊富な新薬発売もあり、4年連続の2ケタ成長を記録しているそうだ。また、Astra Zenecaは社員の満足度を重視し、モチベーションUPの制度や、働きやすい環境を提供している。さらに、スウェーデンの国柄が反映されているのであろう、社員の福利厚生も充実していて、育児や介護休業にも対応可能な多様な雇用制度があるそうだ。



SANDVIK

SANDVIKは本社をスウェーデンに持つ、高度な製品と特定のニッチ分野において世界をリードするハイテク・エンジニア企業である。取り扱い製品は、切削工具、鉱山及び建設機械、特殊鋼で構成されている。サンドビック・グループの目的は、顧客の生産性を向上させることである。世界130ヶ国で事業を展開するグローバル企業である。当日は、日本法人の本社のある神戸から社員の方々にお越し頂き、ブースを設置していただいた。参加者はスウェーデン企業ならではの社風など貴重なお話を聞くことができたようである。



Alfa Laval

Alfa Lavalはスウェーデンに本社を持つ産業機械メーカーである。主要テクノロジーである熱交換器、遠心分離機、流体機器をグローバルに提供している。世界100カ国以上の国々で、油、水、化学、飲料、食品、スターチ、医薬品など幅広いマーケットにソリューションを提供し、顧客企業のプロセス効率の最適化に貢献し続けている。当日は、産業機器事業本部長の庄司邦彦氏にプレゼンテーションを行っていただいた。プレゼンテーションの中では、多様な産業でのAlfa Laval製品の導入事例が紹介され、特にビール業界では、日本の大手ビール会社4社すべてで、酵母の除去の際に、Alfa Lavalの遠心分離機の技術がされているという。また、バイオの分野でもAlfa Lavalの技術が生かされていることも紹介された。





Skype Technologies

Skype社はP2P技術を用いたインターネット上の無料通話サービスを世界中の消費者に無料で提供している。Skypeは本社をルクセンブルグに置くが、CEO兼共同設立者はストックホルム商科大学を卒業したスウェーデン人のNiklas Zennström氏である。高音質の通話が無料でできるSkypeは現在、驚異的な勢いで世界に浸透しており、登録ユーザーは全世界で1億人を突破している。当日はSkypeの日本マーケット開発マネージャー兼技術責任者である岩田真一氏にプレゼンテーションを行っていただいた。スウェーデンは、2001年頃よりブロードバンドが普及しており、インターネットの常時接続という考え方があったからこそ、Skypeというアイデアが生まれたのではないかと、また、1900年のストックホルムの電話普及率が非常に高かったことを挙げ、新技術を積極的に取り入れる国柄も影響していたのではないかと述べられた。会場ではヘッドセットが無料配布され、多くの参加者がその日からSkypeユーザーの仲間入りしたと思われる。



スウェーデンハウス

スウェーデンハウスは、スウェーデンの木造住宅の持つ断熱性・気密性・耐久性といった優れた居住性能を持ち、地震対策や湿度対策など、日本の住宅の必要条件を兼ね備えた輸入住宅を提供している。スウェーデンに現地工場を設立し、樹齢の高い北欧材にこだわって生産をしており、環境対策やバリアフリー対応の面でもスウェーデンの考え方が生かされている。当日は、スウェーデンハウスの物流部の森ステファン氏にプレゼンテーションを行っていただいた。スウェーデンの「モノを大切に使い続ける」考え方が生かし、スウェーデンハウスは3世代住み続けることのできる住宅を目指しているようだ。日本の住宅が平均27年で建て替えられることを考えると、3世代(約90年)という数字は圧倒的である。長く住み続けるための定期検診、メンテナンスもスウェーデンハウスは充実させているという。

Beauty Pollen



Beauty Pollenはスウェーデンの花粉エキスからできた健康食品「ポーレンリフ」の製造販売を行っている。「花粉を食べる」という発想は、自然と生命を大切にする国、スウェーデンで誕生した。花粉は生命の誕生と維持に必要なものをすべて含んだ「完全食品」であり、健康維持や生命力を強めるのに有効なのである。当日は、Beauty Pollen株式会社の佐藤季昭社長にプレゼンテーションを行っていただいた。「人間を第一に考える」「健康な体が健康な社会を作り出す」というスウェーデン社会に根付いている考えが、スウェディッシュポーレン誕生のきっかけとなったという。プレゼンテーションの中では、ポーレンリフの摂取によって、血液に即効的な効果が表れる様子が放映され、参加者は非常に驚いていた。またブースでは実際に「ポーレンリフ」の試食も行われ、多くの参加者の関心が集まっていた。



Foga System

Foga Systemはスウェーデンに本社を持つ収納家具メーカーである。Foga Systemの家具は、北欧のスウェーデンの機能美や環境に配慮する思想を受け継いでいる。また、巾・高さ・奥行までもミリ単位でオーダーできる、真のフルオーダーシステムを提供し、デザインの可能性は無限大である。当日は、ブースを設置して頂き、「カップリング」という特殊接合部材などの収納システムのパーツも展示された。

Seymour Corporation



Seymour Corporation

Seymour Corporationは北欧スタイルの雑貨などの輸入販売を行っている。特にスウェーデン王室も愛用するテキスタイル「エーケルンド」の日本での総代理店である。また、翻訳サービスや北欧の情報提供サービスなども行っており、「北欧何でも屋」という言葉がふさわしい会社である。国立市にある雑貨ショップのワイルドロース国立の方々にもお越しいただき、会場には、「エーケルンド」製品などの北欧スタイルの雑貨が飾られた。特に、「エーケルンド」の製品は環境対策に力をいれており、スウェーデン流のエコの考え方が生かされているようだ。また、藤波社長は実際に、北欧デンマークで生活されていたこともあり、北欧の福祉の考え方などを直接参加者とお話されていた。



朝日新聞社

朝日新聞社国際営業部の方々にはブースを設置していただき、世界の最新ニュースをはじめ、使える英語が身につく記事が豊富な週刊英和新聞「Asahi Weekly」の最新号が参加者に無料で配布された。予定部数をオーバーし、早々と配布が終了になるほど、非常に好評であった。

■教育制度

スウェーデンの教育の特徴で一番大きい点は、お金がかからない点であろう。小学校から大学まで、無料で通うことが可能である。収入の大小にかかわらず、全員に教育を受ける権利が保障されている、それこそがスウェーデン社会の根底に流れている「平等」という意識の表れであろう。

私たちは今回のホームステイ中にストックホルムにある小学校と成人学校を訪問した。

小 学校では、徹底的な少人数教育が行われ、大体が20人くらいのクラスである。

小学校での授業でユニークなのが「テーマ」という授業だ。算数、英語、国語以外の教科はテーマの中で総合的に学習される。テーマをどのように学習するか、それは子供たちの手に委ねられている。

算数は、日本のような一斉授業ではなく、一人ひとりがレベル別の教科書をやる形をとっていて、個別対応がきちんとしている。時間割をみると、自習時間が多い。見学に行った自習のクラスでも、子供たちは算数をやったり、本を読んだり、昨日の水泳の授業の絵日記を書いたり、思い思いのことをして過ごしていた。

テーマ学習・グループ学習・体験型学習・自己評価を小さいころから徹底して行っている。校長先生に教育方針を尋ねたところ、社会性と自分で自分のやることに責任を持つことを重視していると答えてくださった。

テストは小5、中3の学期末に行なわれる英語と数学の「国家試験」のみであり、しかも成績表は中2までない。その代わりに三者面談を重視している。高校受験も中3の成績で決まり、日本のような入試はない。スウェーデンの子供たちがのびのびと勉強できるのは、そのためである。



も うひとつ特徴的だといえるのが、成人教育である。スウェーデンは、OECD調べで最も教育年数の長い国であり、生涯学習国家である。高校卒業後、すぐに大学進学する人は多くはない。就職したり、海外を旅行したりしてから自分の本当にやりたいことを見つけ、大学に入る方が普通である。労働経験は高校卒業時の成績にプラス点となるのである。

成人の再教育の場として、成人学校というものも普及しており、大学入学のための成績や科目が足りない人、また失業中の人、転職希望の人、働きながら専門知識を身につけたい人が大学入学の切符を手にするために学んでいる。当然ここでも国がかなりの金額を負担してくれる。見学に行った日本語のクラスの生徒たちも、高校卒業後すぐに入った人もいれば40代の主婦もいる、というように年齢や学歴は様々であった。スウェーデン社会は、何度でもやり直しのきく社会なのである。

少人数教育、個人を尊重した教育、自分で考え、選択する力を身につけさせる教育、そして何歳になっても勉強できる環境など…日本がスウェーデンの教育に学ぶところは大きい。とりわけ、これから高齢社会を突き進むだろう日本にとっては、生涯教育というのは大きな課題となるのではないかと。誰もが学びたいときに学べる環境こそが、社会の活力に繋がるのかもしれない。

■老人介護

スウェーデンと言われて、一番最初に思い浮かぶであろうが、その中でも「福祉」を挙げる人は国として、多くの国に知られているが、スウェーデン特に日本は今、少子高齢化が問題となってからになるといわれている。高齢者たちが暮らしやすくなっている。そんな状況の中、福祉大国のスウェーデンかということから、私たちはスウェーデンで

私 たちの訪れた老人ホームは、ストックホルムの街中にある300人程度の人が暮らす、日本での老人ホームのイメージとはまったく異なる美しい施設であった。

老人が暮らす上で大切なこととして、医療が挙げられるが、この老人ホームでは定期的にナースやドクターが診察に来てくれるそうだ。更に急な病気などの際も近くの病院と提携しているため早急な処置が望める。一般的にスウェーデンの医療は、日本よりも少し手続きが多く、診察を受けるまでに時間がかかる。その点を考慮すると、この老人ホームにいてだけで得ることの出来る、健康面での安心は大きい。

このようなメリットから、この老人ホームに入りたいというご老人は多く、常に順番待ちの状態、場所によっては1500人も老人が順番を待っているそうである。

ところでこの老人ホームで暮らすには一日いくらかかるのであろうか。入居費は所得の額によって異なるそうだが、基本的には食事が3食ついて一日1500円程度だという。この日本では考えられない安さによって、老人たちの財布には生活費以外にもお金が残るようになっているそうだ。



ことはなんだろう。女性、税金、ITなどなど。いう
 少なくないだろう。スウェーデンは世界有数の福祉大
 ンの福祉は実際どのようなものなのだろうか。

久しく、近い将来、高齢者が日本の総人口の4分の1
 い社会を考えることは、日本の大きな課題のひとつに
 デンから老人福祉という面で学べることもあるのでは
 老人ホームを訪れた。



次に、ここで働く人たちにフォーカスした
 い。私たちを案内して頂いたヘルパー
 の方は、フィリピン人の女性であった。老人
 ホームで働きたいと思う人は、スウェーデンで
 はそれほど多くなく、特に若者には不人気な
 仕事なため、職を失ってしまった人や、外国人
 の方に職業安定所で紹介されることが多い。
 そのためヘルパーの人には、比較的外国人が
 多いそうである。

しかし、ヘルパーという仕事は人気はない
 が、とてもやりがいのある仕事だと彼女は話
 してくれた。自分のしたことに対して、お年寄
 りの方が喜んでもらえる嬉しいし、外国人で
 ある彼女でもマネージャーとして自由に働け
 る。さらに日本とは違い、服装なども規定の
 シャツを着る以外は自由だそうだ。このこと
 は、老人にとっても病院とは違う気分になれる
 というメリットもうんでいる。

見学をさせていただいて実感したことは、
 ご老人の方々の表情が日本の老人たちより
 も豊かだったということだ。同じ老人ホームで
 暮らす仲間たちとおしゃべりをしたり、ヘル
 パーの人たちとコーヒーを飲んだり、趣味の
 編み物や絵を描いて壁に飾っていたり、パー
 ティーでの写真なども見ることができた。

ここから福祉の根本にある考え方が日本と
 スウェーデンでは違うのだということを感じ
 した。日本では、必要最低限度の生活を保障
 している。一方、スウェーデンでは国民の平均生
 活を保障している。

スウェーデンの福祉のよいところが、その
 コンセプトから日本に浸透していくことで、こ
 れからの日本の福祉はまだまだ見直せるとこ
 ろが多いのではないだろうか。

同棲婚 —サムボ—

スウェーデンには、日本には無い独特な家族形式がある。それが「サムボ」という名の同棲婚制度だ。私た
 ちは、文献等を通じた事前研究を行うとともに、スウェーデン滞在中に実際にサムボを経験した、もしくは
 現在サムボである方々にインタビューを行い、その現状を調査した。



サムボとは、「登録している住所を同じく
 し、継続して共同生活を行い、性的関係
 を持つカップル」のことを指す。スウェーデンで
 は、1987年に「サムボ法」が成立し、この同棲婚
 である「サムボ」が法的に認められることになっ
 た。サムボ法は、同棲解消時の財産分与や、子
 供の養育権を規定している。正式な婚姻届を
 出す「法律婚」に比べ、カップル解消時・死別
 時に分与を認められる財産が一部制限されて
 はいるが、日常的に生活を送る上で、法律婚
 カップルとサムボカップルの差異はほとんど無
 い。しかも、自宅に送られる税金や光熱費など
 公的な請求書などによって自動的に実際にサ
 ムボであるかどうか認められるため、自らサ
 ムボになるための届出を行う必要も無い。

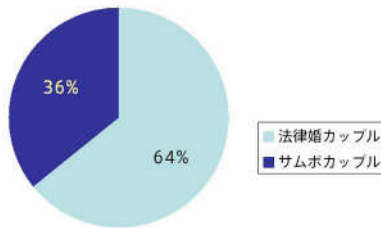
このような手軽さもあり、スウェーデンでは既
 に「サムボ」がスタンダードとして定着している。
 日本の内閣府経済社会総合研究所の調査によ
 れば、ストックホルム在住の35歳から44歳まで
 の600カップルのうち、法律婚カップルとサムボ
 カップルの割合は64:36であり、その法律婚カ
 プルの約9割もがサムボを一度経験した上で、
 法律婚カップルに移行しているという。実際に
 インタビューをしたサムボを経験した、また現在
 サムボである方からも「結婚する前に、相手が
 本当に自分にあっているかがわかる」「好きだ
 から一緒に暮らしたい、と思うのはこの国も
 一緒であり、それが法律で認められていること
 はすごく利かになっている」「経済的にも家賃が
 安くて済む」などの、日常生活的な意見を伺
 うことができた。事実上、結婚前のお試しとして
 の役割も果たしているのである。

それでは、なぜ「サムボ」という独特な制度
 が作られたのだろうか。それは、スウェー
 デンが世界有数の福祉国家であることが反映
 されている。スウェーデンではもともと国からの
 福祉の支援が手厚いこともあり、男女平等の理
 念が根付き、結婚せずとも男性は男性のみで、
 女性は女性のみで生計を建てていける状況に
 あった。このため、必然的に婚姻の持つ意義が
 低下し、婚姻届を出さない事実婚・同棲婚が
 増加していたのだ。さらにその結果として、少
 子化傾向も現実のものとなっていた。このよう
 な状況の中、同棲解消時に一方のパートナー
 やその子供が不利益を被ることのないように、
 さらに同棲カップルでも安心して子供が産むこ
 との出来る環境を整備することによる少子化へ
 の歯止めとして、サムボ法は制定されたのであ
 る。少子化対策の取り組みについては、サムボ
 法制定の他にも育児制度の充実化などの取り
 組みにより、2005年には出生率が1.71と、欧州
 の平均を上回るまでに回復するという成果が
 上がっている。

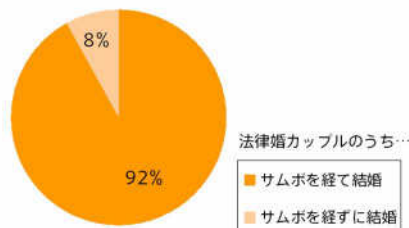
ところで、サムボカップルの間に生まれた子
 供は、婚外子、いわゆる非嫡出子となる。日本
 では、非嫡出子は法的に遺産相続において、婚
 姻関係にあるカップルから生まれた嫡出子に
 比べて相続分が少ないなどの法的な不平等
 が存在しており、社会的な偏見も根強い。しか
 しスウェーデンでは、非嫡出子の扱いが嫡出子
 と平等であるばかりではなく、「非嫡出子」とい
 う言葉すら、差別用語として法律から削除され
 ているほどである。現在生まれてくる新生児の
 うち、非嫡出子は56%にもものぼっており、社
 会的な差別も全く無いといっているだろう。社
 会的な弱者が不利益を被ることの無い仕組みが
 確立されているのである。

そのようなサムボ制度の問題として、サムボ
 解消率の高さが伝統的な家族形態の破壊を助
 長しているのではないかと、という点が挙げられ
 る。実際、スウェーデン都市部における家族形
 態で一番多いのは、母子家庭であり、それに次
 いで混合家族(子連れの再婚家族)である。不
 安定な家族形態が子供に及ぼす影響がス
 ウェーデンでも議論されている。

最後に、サムボという概念の日本社会への
 応用を考えたいと思う。日本にとってサムボの
 適応は、スウェーデンがそうであったように少
 子化対策の一つになるかもしれない。社会的、文
 化的な違いはあるかもしれないが、少子化が
 叫ばれる中、日本が進むべき一つの道しるべと
 して、議論の余地はあるのではないかと。



■法律婚：サムボ＝64：36



■法律婚カップルの92%がサムボを経て婚姻

データ：内閣府経済社会総合研究所編
 「スウェーデン家庭生活調査」(2004年4月)より

Swedish Business

世界的な活動を行っているスウェーデンに関係の深い企業を訪問させていただくことで、生のビジネスに触れ、ビジネスから見たスウェーデンへの理解、そしてグローバルな視点からビジネスを学ぶことを目指しています。



IKEA Japan -IKEA DAY-



IKEAはスウェーデンの誇るグローバル企業の一つで、世界No.1の家具メーカーである。世界34ヶ国に234店舗を展開している(2006年5月現在)。「ホームファニッシングストア」を自称するIKEAの扱う商品は非常に幅広く、インテリア家具のみならず、おもちゃ、キッチン用品、観葉植物までカバーする。IKEAは「To create a better everyday life for the many people」というビジョンを掲げており、機能的でデザインの優れた製品を、できるだけ多くの消費者が購入できるよう手頃な価格で提供することを目指している。実際、IKEAの提供する商品の値段は非常に安く、コスト削減が徹底されている。例えば、IKEAの家具の多くはフラットパックの形で販売され、消費者が自宅を組み立てるシステムになっている。これによって輸送費、在庫スペースの節約が可能になる。また、店舗を郊外に建設することで土地代も安くおさえられている。もちろん、手頃な値段ではあるが、北欧ならではのシンプルで洗練されたデザインと、クオリティーの高さにもIKEAは妥協を許していない。

日本での初店舗となるIKEA船橋店を、オープン前の4月2日に訪問した。当日はMOS,EXJ以外に、Sweden Day参加者も招待された。ストアマネージャーのゴードン・ダスタフソン氏とリテールマネージャーのラース・ピーターソン氏によって、プレゼンテーション、店内ツアー、ランチを交えたQ&Aセッションが行われた。プレゼンテーションでは日本進出に関する貴重な話を聞くことができた。日本進出にあたって、IKEAは女性をターゲットにヒアリング調査を行ったそうであり、妻が来れば夫もついてくるという日本人の行動を予想したようである。また、初店舗の立地に関しては、人口分布などの点から船橋はIKEAにとって最適な土地だったようである。店内を案内させていただいて、まずほとんどがスウェーデンのIKEAストアと同じ品揃え、規模、システムであるということに驚いた。平均2~3時間の滞在時間を想定される店舗には、IKEAを象徴する70ものモデルルームがある。このモデルルームはIKEAからのインテリアの提案であり、消費者はそれを参考に商品を選ぶことができる。このモデルルームに関しては、日本の一般的な住宅の徹底的なリサーチを行ったようで、オシャレで洗練されているが、リアルな生活観も感じられ、つい自分の部屋の参考にしなくなる、絶妙の展示になっている。また、日本人のペット好きを反映して、ペット商品コーナーには特別力をいれたそうである。さらに、店内には730もの巨大なレストラスペースがあり、これは世界のIKEAストアの中でもかなり大きいサイズだそう。最後のQ&Aセッションでは、IKEAの広告戦略、リクルート戦略などにも話題が及んだ。日本進出にかけるIKEAの自信をひしひしと感じ、IKEAの日本での大成功を確信する一日となった。

(店内の写真はIKEA船橋店ではなく、IKEA Stockholm Barkarbyの様子です)



DESIGN HOUSE Stockholm HOUSE

デザインハウスストックホルムは1992年にアンデルス・フディグにより設立された、インテリア小物・雑貨を扱うメーカーである。在籍するデザイナーは北欧人のみ。デンマーク、フィンランド、ノルウェー、そしてスウェーデンのデザイナーや建築家達からのエキサイティングなアイデアを選びすぐり、毎年コレクションを増やし続けている。スカンジナビアを代表する有名なデザイナーと共に仕事をし、そのレベルの高いデザインを手に届く価格で数多く商品化することで、リーズナブルな商品でちょっと差をつけたいおしゃれ層を取り込んでいる。世界展開にも成功しており、アメリカ、日本、EU諸国など16カ国でショップ展開中である。

そのデザインハウスストックホルムのショップとオフィスを、2月24日に訪問させていただいた。数々のデザイナーが訪れたという部屋にて私たちはデザインハウスストックホルムについてのプレゼンテーションを受けた。有名ブランドには例外なくつきまとう盗作被害も昨今頻発しているようで、デザインの権利保護に関しては非常にシビアに取り組んでいるとおっしゃっていた。高品質とグッドデザインに加え、リーズナブルな価格が一つの売りようだが、実際庶民の学生にはプライスで躊躇を迫るような商品がほとんどで(庶民の学生はオールIKEAらしい)、スウェーデンでも持っているワンステータス上、一味違うという受け取り方をされるようだ。しかし店内を見回して一つ一つのデザインに感心したり心惹かれてしまうのも事実で、いつかデザインハウスの品々で未来の我が家をトータルコーディネートしてみたいものだと思ってみた。



Atlas Copco

Atlas Copcoは、産業機械において世界シェアトップクラスに位置するスウェーデン企業である。その売り上げの90%以上が、本国スウェーデンではなく海外からの収益であるという事実が示すように、世界で幅広く活躍するグローバル企業の一つである。事業内容は大きく3つに分かれており、コンプレッサ事業部、土木鉱山機械事業部、産業機械事業部から成り立っている。

3月1日に私たちが訪問させていただいたのが、会社に併設された、カフェスペースやプレゼンテーションホールまで備える展示用の地下鉱山である。まずはプレゼンテーションホールでAtlas Copcoという企業についての説明を受けた。Atlas Copcoはすべての事業部門において世界のリーダーとなり、常に顧客から選ばれ続けることをビジョンとしており、さらなる発展と成長を目指している。製造販売の他にも、顧客のニーズに合わせた産業機械のレンタルサービスなども行っており、競合の追随を許さない、強固なブランドを確立している。またリクルーティングに関しても話に触れられ、多様性を重視した社内の組織づくりが進められているという。プレゼンテーションの後には、実際に地下坑道内を案内していただいた。実際の採掘作業は行っていないものの、掘削用の大型ブルドーザーや排水装置など、様々な機械を間近に見ながら、坑道のかかり奥のほうまで社員の方に説明をしていただきながら進むことができ、貴重な体験となった。



Nordic Light Hotel / ABSOLUT ICEBAR

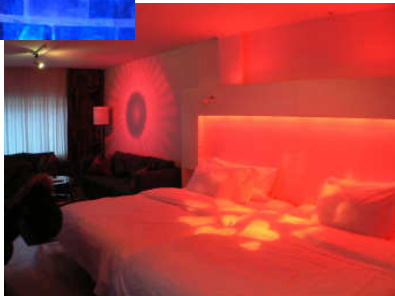


ABSOLUT ICEBAR



ストックホルムの中心部にあるNordic Light Hotelを3月1日に訪問した。ホテルはシンプルで上品さがあり、北欧スタイルのデザインを満喫できるホテルとなっている。偶然にもロビーにあるデザインオブジェは日本のオフィス用品メーカーのアスクルとコラボレートしたものであった。日本とスウェーデンの意外なつながりを感じることができた。ホテルの客室は、細部にまでこだわりの感じられた。特にベッドの照明が自分好みの色に調整することができる。高級ホテルであるので、学生には難しいかもしれないが、将来的に一度は泊ってみたい素晴らしいホテルであった。

また、系列のNordic Sea HotelにはABSOLUT ICEBAR STOCKHOLMがあり、そちらも訪問させていただいた。日本でも知名度が高いICEBARだが、壁からグラスまで、全てが氷でできていて空間の中は、ストックホルムという都市の中にあることを忘れさせてくれるほど幻想的な世界であった。なお今年2月には、西麻布にヨーロッパ圏外初となるABSOLUT ICEBAR TOKYOがオープンしている。世界一純度が高いと言われるスウェーデン北部の川の氷を輸送してくるほどの徹底ぶりであり、是非一度スウェーデンの空気を味わいに、足を運んでみてはいかがだろうか。



 nordic light hotel

Skype社はスウェーデン人のCEO・ニクラス・ゼンストロム氏によって設立され、世界中どこへでも、何時間でも無料で通話することができる、PtoP技術を利用したインターネット音声通話ソフト“Skype”を提供している。相手がSkypeを使用していない場合でも、Skypeから固定電話への通話を可能にする“Skype Out”を利用することで破格の値段で国際通話も利用することができ、インターネットにさえ接続することができれば、場所に関係なくコミュニケーションを可能にしてしまう、革新的なツールである。実際、私たちがプロジェクト準備のために、EXJメンバーとの連携が不可欠になってくるのだが、このSkypeを活用することで日本とスウェーデンとの距離を感じさせないほど、密接なやり取りが可能になった。また、あるEXJメンバーが日本滞在中、スウェーデンに残る彼女に、Skype Outを通じて毎晩連絡を取っていた姿も印象的である。

私たちがMOS2006は、5月17日に一橋大学にて、一橋大学キャリアデザイン委員会との共催により学生を対象としたイベント「Skype Day」を開催した。日本マーケット開発マネージャー兼技術責任者である岩田真一氏をお招きし、「Skypeと私」と題し、Skypeについて、そして岩田氏ご自身の経験をもとに、キャリアデザインについてのプレゼンテーションを行っていただいた。なかでも、通話料を気にせず利用できるSkypeは、「つながりばなし」をすることで距離に関係無く「つながっている」感覚を実現させることのできるツールだとし、入社当初はSkype社の日本オフィスが無く、Skypeにログインすることが出社であったり、海外出張中にスカンジナビア航空の機内からインターネット接続サービスを利用し、産まれたばかりのご自身の赤ちゃんの顔をSkype Videoでご覧になったりと、ビジネス・プライベートとも今まででは考えられないほどコミュニケーションの質を高めることのできるツールであると、様々な経験談ともにお話いただいた。

会場には約80名の学生が集まり、Skypeのビジネスモデルや今後の展開について、熱心な質問も相次いだ。また、当初日本の大企業に就職しながらも外資系やベンチャー企業へと転職され、大企業に所属することで安心感を得るのではなく、「自らの成長を最大のリスクヘッジとする」という岩田氏のキャリア観に刺激を受けたという学生も多かったようだ。

Skype -Skype Day-





Kista City は、ITと通信技術の最前線をいくScience Cityであり、数百ものIT企業の故郷である。事実、Ericsson, Nokia, TietoEnator, HP, Microsoft, Sun Microsystems, Intel, Oracleなどの名だたる大企業がここにある。ストックホルムの中心部から地下鉄で15分とアクセスの良い立地であり、また世界中から人が集まるためにマルチカルチュラルな空気を持っている。私たちは、3月7日に、このKista Cityを訪問し、同時にKTH, ERICSSON, ACREOと、Kista Cityを代表する企業や大学を訪問させていただいた。

Kistaでは、ここ10年で居住やビジネスのための建物が増加し、雇用数が2倍に、教育では3倍になった。世界中からこの地に集まるビジネスや研究者たちは、この地域全体の成長へのエンジンになり、アメリカやヨーロッパの似たような地域のモデルともなっている。Kistaはモバイルサービス、ブロードバンドシステム、ワイヤレスシステムに関してはすでに世界的リーダーである。

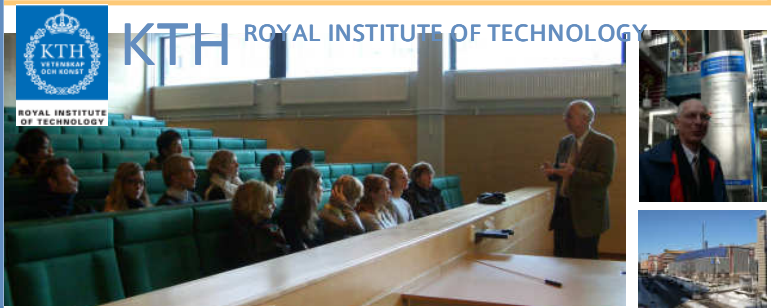
Kistaは、産業、学会、大学との間の密接なコラボレーションで有名である。相互に緊密なネットワークを持っていることが、企業、大学それぞれの発展にとっても役立っている。日本でもそのような取り組みも無くはないが、実際に成果が出ている例はまだ少ないだろう。大学は大学、企業は企業の独自のスタイルをとっているため、大学で学んだことが企業ではほとんど役に立たない、というのでは意味が無い。日本においても、積極的にネットワーク作りが求められているのではないかと。

Kistaはいま、2015年のビジョンに向けてますますの発展を遂げている。IT産業を支えるKistaは、ストックホルムの、またスウェーデンの、成長への大きな活力となることは間違いないだろう。

私たちはKistaにあるCampus IT-Universityを訪問した。このIT-Universityは、KTH(王立工科大学)とストックホルム大学の共同のベンチャーであり、ナノ物理学から人とICTとの関係にいたるまで、あらゆる種類の情報コミュニケーションテクノロジーに関する研究と教育を行っている。彼らの目標は、テクノロジーと人間、社会のインタラクティブな関係の促進である。ストックホルム大学と協力することで、テクノロジー問題のソフト面とハード面をリンクさせることができるというのが、ユニークな点なのだ。

また、キャンパスがIT産業都市Kistaに位置することを活用し、主要な企業とのインタラクティブな関係を保っており、いくつものコラボレーションのプロジェクトを持っている。学生時代からの起業も非常に奨励されている。Kistaは、たくさんのお新企業が生まれる町であり、ここで学ぶ学生たちにとっても刺激的だろう。

IT-Universityは、理系大学と文系大学のコラボレーションで生まれた大学であり、画期的である。そのために新しいアイデアが生まれやすい環境なのではないか。私たちの一橋大学でも、東京工業大学や東京医科歯科大学との提携を結んではいるのだが、残念ながら、KTHとストックホルム大学ほど強いコラボレーションの成果はまだ表れていない。ITに特化して、理系的アイデアと文系的アイデアの合作を行う成功例を見習って、日本でもそのような試みが始めれば望ましいのではないだろうか。



ERICSSON ERICSSON

ERICSSONは本社をスウェーデンにもち、モバイル・インターネットおよびブロードバンド、インターネット・コミュニケーションの将来を最先端技術で築くリーディングカンパニーである。日本でもSonyとの合併会社「Sony Ericsson」で馴染みの深い人も多いであろう。ストックホルム・KistaのERICSSON本社は、周囲をERICSSON関係の建物で囲まれた、いわば「ERICSSON TOWN」の中にあるようであった。企業訪問ではまず始めに、ERICSSONと電話の歴史に関するプレゼンテーションを受けた。

1876年、ラーシュ・マグナス・エリクソンがストックホルムで電話機の修理店を設立したことに始まるERICSSONの創立から、以後ERICSSONが有線・無線を問わず、革新的な技術で通信システムの進化に貢献してきたこと、また、通信機の進化の早さを、初期の電話など、実際に本物を見せてもらいながら説明していただいた。ERICSSONの通信システムへの貢献、また電話機(特に携帯電話)の進化の早さに驚かされた。

次に、光ファイバー、ブロードバンド回線の最新技術について説明していただいた。その中で3 playという、インターネット・テレビ・電話をつなげた技術のデモンストレーションを受けた。リモコン一つでリビングがもっと便利に、外部とつながる姿は、未来を描いた一昔前の映画が現実のものになるようであった。

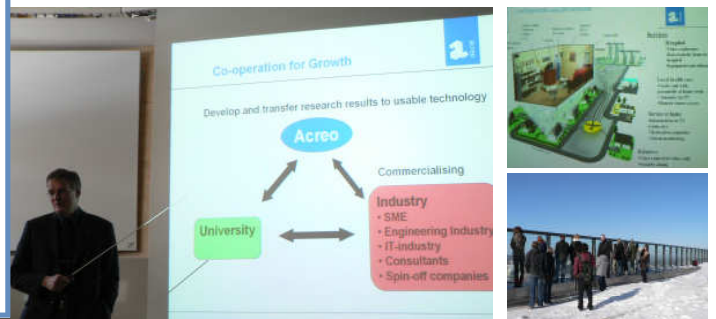
また、最後にERICSSONの最新携帯電話技術に関する説明を受けた。デモンストレーションでは、携帯電話で自動販売機からジュースを買うことができるサービスや、2台のSmart Phoneの間で画面を共有できる機能を、〇×ゲームのお絵描きを通じて紹介していただいた。近い将来、携帯電話一つで何でもできるようになるといふ、自信に満ちたお言葉がとてもリアルに聞こえた。



Acreoは、民間企業グループと国営企業によって設立された、エレクトロニクスや光学、通信技術といった技術の研究を行う研究機関である。顧客企業に対して研究開発面でのサポートを提供すると同時に、Science CityであるKista Cityに位置するという好条件を生かし、KTHをはじめとした教育機関との産学連携の橋渡しとしての役割も持っている。その成果はすでに表れており、研究成果を基にいくつものスピンオフ企業を創出し、成功を収めているという。

プレゼンテーションでは、研究成果を活用した、ブロードバンドを用いた24時間体制の介護住宅システムや、レーダーを使った自動車運転支援システムをはじめとした新技術について説明していただいた。近未来の快適な生活の基盤となる様々な技術を生み出すためのシステムや機関が、官民・産学の垣根を超えて円滑に行われていることに感銘を受けると同時に、スウェーデンの産業の「強さ」の根本を実感した。

Acreo



あなたの学生生活を応援します！

We support your student life!



- 組合員出資金 ¥13,000(26口)
(卒業または脱退時に全額返還いたします)
- 教科書・専門書などの書籍が10%OFF
- 食堂でのコンパ・パーティ承ります！
- 24時間保障の学生総合共催 etc…

一橋大学消費生活共同組合

TEL 042-572-7818(本部)

<http://hit-u.coop-bf.or.jp/>

世界と日本、2つの視点で「今」を読む。



1年間の定期購読を
お申し込みいただくと
¥3,600+\$49.95
もお得

「ヘラルド朝日」の前半はIHTパリ本社が編集するHERALDセクション、後半は朝日新聞社が国内ニュースを中心に制作するASAHIセクションという構成で、「世界」と「日本」が同時に読める画期的な英字新聞です。



「タイムズ・セレクト」の購読には、通常、年間US\$49.95がかかりますが、ヘラルド朝日の定期購読をお申し込みの方は無料でお楽しみいただけます。



TimesSelectとは？

「タイムズ・セレクト」とはクオリティの高い情報を会員の皆様だけにお届けするニューヨーク・タイムズの新しいオンラインサービスです。

タイムズ・セレクトについてのお問い合わせは

E-mail: H-A@asahi.com

※ヘラルド朝日の定期購読のお申し込みから「タイムズ・セレクト」のIDの発給まで2週間ほどかかります。あらかじめご了承ください。

購読料(税込み)	発行	購読申込方法
<p><朝日新聞社へ直接一括前払いいただいた場合></p> <ul style="list-style-type: none">●6か月……22,200円(6か月で1,200円の割引)●1年……43,200円(1年で3,600円の割引) <p>※中途解約できません。</p>	<ul style="list-style-type: none">●1部……150円●1か月……3,900円 <p>月曜日から土曜日まで、 週6日発行</p>	<ul style="list-style-type: none">●インターネット：www.asahi.com/iht-asahi/にアクセスし、お申込みフォームに人力の上、送信してください。●フリーダイヤル：0120-456-371(月～金、午前10時～午後5時) ※「タイムズ・セレクト」のお問い合わせ ☎ H-A@asahi.com (E-mailのみ)



WWW.beauty-pollen.com

スウェーデンの
清浄な空気に育まれた
花粉の生命力



パセリ



トウモロコシ



マツ



ライ麦



タンポポ



キク



電子顕微鏡で見た花粉の外殻。この外殻を除去してポーレンの栄養素を丸ごと残しています。(左の粉末)

ポーレンリフ POLLEN RIFF



スティック1本(1.5g中)に
約7000個の花粉を含有。
内容量1箱15本入り6箱パック
価格15,120円(税込・本体14,400円)

●100種以上の栄養素を含むポーレンリフ

自然と共存し、その恩恵を日々の生活に効果的に取り入れているスウェーデンの人々。ポーレンリフは、そんなスウェーデン人が「パーフェクト・フード」と称した自然食品です。植物の生命の源であるポーレン(花粉)は、ビタミン・ミネラル・タンパク質・アミノ酸類など、人体に必要な100種類以上の栄養素を含みます。細胞の活動を鈍らせ、疲労や免疫力の低下の原因となる活性酸素をすみやかに排除。細胞ひとつひとつから生命力に満ちた体を保ちます。

ポーレンリフは、スウェーデンの清浄な空気の中で農薬を使わず、有機栽培されたトウモロコシ・ライ麦・マツ・パセリ・タンポポ・キクの花粉を主原料としています。高度なバイオテクノロジーを用い、体内への呼吸を防げ、アレルギーを引き起こす原因にもなる外殻部分を除去しました。ポーレン丸ごとの栄養素が残っています。乳幼児をはじめ妊娠中やアレルギー体質の方、病中病後にも安心してご利用いただけます。



ビューティポーレン株式会社
Beauty Pollen Co., Ltd.

〒107-0052 東京都港区赤坂3-21-6 河村ビル

TEL.03-3584-7807 FAX.03-3587-1149

E-mail : info@beauty-pollen.com ☎0120-378739

みはなさく

■ MOS2006 Project Sponsors

Sacndinavia-Japan
Sasakawa Foundation

スカンジナビア・ニッポン
ササカワ財団



ビューティーポーレン株式会社



スウェーデンハウス株式会社



スカイプ・テクノロジーズ



フォガシステム株式会社

Seymour Corporation



有限会社シーモアコーポレーション



朝日新聞社

株式会社アルバイトタイムス

英会話 & 留学 ジオス

■ Swedish Project Partners



Scandinavian Airlines



AstraZeneca
life inspiring ideas



W&W
WALLENIUS WILHELMSEN
LOGISTICS



protection where you need it™



ROYAL INSTITUTE
OF TECHNOLOGY



The Student Association
Stockholm School Of Economics



一橋大学

■ Project 協力機関・組織

在日スウェーデン大使館
在スウェーデン日本大使館
欧州日本研究所 (EIJS)

スウェーデン商工会議所 (SCCJ)
スウェーデン大使館商務部 (Swedish Trade Council)
スカンジナビア政府観光局 (STB)



EXPORTRÅDET
SWEDISH TRADE COUNCIL



最近、遊んでばかりでつまらない。



バイトして、生きる手応え見つけよう!

バイト探しは **DOMO!**



MOS2006 Members

藤井 康太	中條 亜耶
米沢 渉	山本 菜月
秋元 崇志	鳥居 彩香
河内山 拓磨	三科 友理香
藤原 幸憲	小林 麻紀

Web <http://www.josuikai.net/mos2006/>

Blog http://blog.livedoor.jp/mos_2006/

—MOS2006で一発検索—

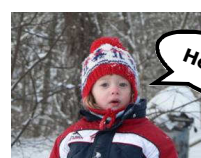
次年度Websiteは現在作成中です!

MOSに関するお問い合わせ

mos2007@gmail.com

担当 / MOS2007代表 小林麻紀

MOSへの協賛や、取材についてのご連絡もお待ちしております



MOS2006 Project Magazine

発行日 / 2006年7月

発行 / MOS2006

発行人 / 藤井康太

編集人 / 秋元崇志

世界につながる、
バイリンガル。



英語と日本語、2カ国語で読める朝日ウイークリー。
世界の最新ニュースで、使える英語を身につけよう!

世界の最新ニュース、映画や音楽の情報、マンガ、占いなどバラエティに富んだ記事を楽しめる英和新聞「朝日ウイークリー」。文中の難しい英単語には日本語の注釈付きだから、英語と日本語、バイリンガルで無理なく読める新聞です。朝日ウイークリーの生きた英語に触れることで“使える英語”を身につけることができます。海外留学や就職活動に備えて、英語をブラッシュアップしたい大学生の皆さんにおすすめです。



月ぎめ
970円
(税込み)

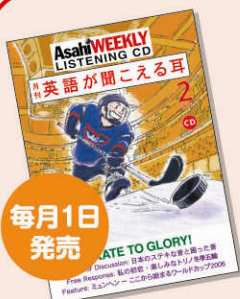
週刊英和新聞 朝日ウイークリー Asahi WEEKLY

「朝日ウイークリー」
定期購読のお申し込みは

●電話で
☎ **0120-33-0843**

●インターネットで
www.asahi.com/aw/

タブロイド判カラー24ページ以上
毎週日曜日発行 / 発行: 朝日新聞社



朝日ウイークリー・リスニングCD
月刊英語が聞こえる耳

定価(税込み) **1,575円** 朝日ウイークリーとは別売です。
発行: 朝日新聞社 / 編集: 朝日ウイークリー編集部

生きた英語を楽しみながら、“聞こえる耳”を手に入れよう!
リスニングCD「月刊 英語が聞こえる耳」は英和新聞「朝日ウイークリー」からピックアップした記事やコラムを音声で収録。ネイティブスピーカーが話す生きた英語をくり返し聞けるので、リスニングテスト対策に最適です。

大学入試センター試験の
リスニングテスト対策に最適。

関西超有名進学校で採用。

「英語が聞こえる耳」のお申し込みは
(バックナンバーをご希望の方は併せてお申し込みください。)

電話で ☎ **0120-85-9533**

インターネットで <http://opendoors.asahi.com/>

■お近くのASA(朝日新聞販売所)でも直接お申し込みいただけます。